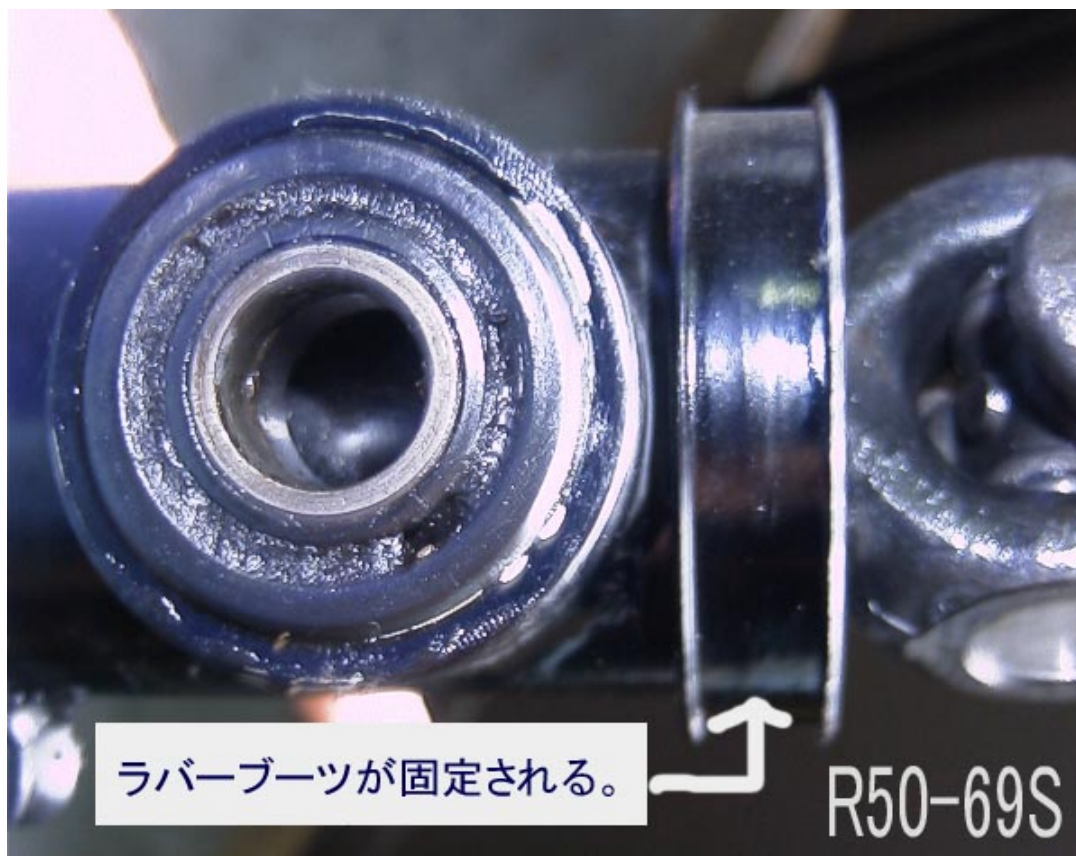


スイングアーム・フランジ形状とオイル漏れ

ギアボックス脱着、ラバーブーツ交換などの後、オイル滲みが発生してなかなか改善しないことがあります。油分を綺麗に脱脂してブーツを装着すれば密着度が上がるのでオイル滲みは発生しにくいのですがブーツを再使用した場合などでは油分が残り、ホースバンドを締め付けていくとフランジ部のテーパで後方にズレてかえって密着度が悪化します。適当な締め付けで対応します。

R 6 9 S などではブーツの収まりが良いようにスイングアームにツバを設けてありズレようがありません。またツバがダム役目をしてオイル滲みに有効です。

R 7 5 / 5 などではスイングアーム作動角度が増大してフランジ部が単純な円形から長円形に変化しました。製造方法も変わり、コストダウンの影響もあるのかフランジ面はテーパ形状になり不都合が出るようになりました。メーカーも不具合に気付いたようで 1 9 8 1 年からズレが発生しないように溶接で 2 ヶ所に爪を追加しました。



1 9 5 5 - 1 9 6 9 R 5 0 - 6 9 S



1969 - 1980 (/ 5 - / 7)



1981 - 1984